

『虹色の朝が来るまで』

8月24日（水）

14：00～17：00

会場：愛媛大学城北キャンパス
南加記念ホール※₁

定員：先着100名（※₂予約優先）

参加費：無料 手話通訳・文字通訳あり

※新型コロナウイルス感染防止の観点から、入場時に、住所、氏名、電話番号をご記入いただきます。

※₁学内の駐車場は利用できないため、自動車でのご来場の際は、近くの有料駐車場をご利用ください。なお、学内駐輪場は利用できるため、自転車でのご来場は可能です。最寄り駅は伊予鉄市内電車「赤十字病院前」です。詳細はイベント専用Instagram等でご確認ください。

※₂予約優先となりますので、確実な入場を希望される方は、下記アドレスより氏名、住所、電話番号を記載の上、お申し込みください。定員に達した場合、入場をお断りすることがあります。

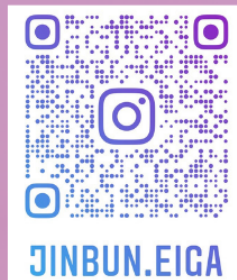
※上映日2週間以内に海外渡航された方はご入場をご遠慮させていただいています。

主催 愛媛大学人文学会

企画 渡邊元貴 越智雄磨

jinbun.eiga@gmail.com

申し込み/
問い合わせ



〈 イベント専用
Instagram 〉

会場アクセスや登壇者
情報、作品詳細などを
日々更新しています

映画上映会
+
トーク

ゲスト：わたなべひろゆき
（松山市議会議員）
石川良子
（松山大学教授）
鈴木静
（愛媛大学教授）
ホスト：渡邊元貴
（愛媛大学学生）

ありのままの自分でいたい。ありのままに生きていたい

群馬の手話サークルで知り合ったろう者の華とあゆみ。華は初めて同性に惹かれ戸惑うも、あゆみと交際することになる。後日、華は実家へ帰り、両親にあゆみとの交際について話すと、いつでも味方だった母親から拒絶されてしまう。母親の態度に華はショックを受けるが、あゆみと関係を断ち切ることがどうしてもできない。苦しんでいる華を見かねたあゆみは、東京で開かれる“ろう者のLGBTQイベント”に華を誘う。そこには、悩みを抱えつつも前向きに生きる、ろう者のLGBTQの人たちが集っていた。それぞれが今まで乗り越えて来た苦難を聞くうちに、初めは緊張していたふたりも、次第に心を開いていく…

監督は、自身もろう者である今井ミカ。さらに演じる役者陣もろう者が集められた。ろう者×セクシュアルマイノリティ×地方都市という、いくつもの生きにくい環境が重なる中で生きる若者の姿を、優しくドラマチックに描いている。今までは、ろう者を題材に音のない作品を作り続けてきた監督が、本作で初めて音響をつけた作品制作に取り組み、聴者へ向けても熱いメッセージを送っている。

監督・脚本・編集：今井ミカ | 撮影：湯越慶太 | 音楽：門傳一彦

出演：長井恵里 小林遙 玉田宙 佐藤有菜 ノゾム 菊川れん 高木里華 太田辰郎 ほか

提供：シュアール | 企画・制作：JSLtime

配給・宣伝：フィルモット

2018 | 日本 | 63分 | 16:9 | カラー | 日本手話・日本語字幕

| 英題：Until Rainbow Dawn

©2018 JSL Time

観客の皆様の意見や質問も受け付けます！

〈公開トークで3人のゲストに語ってもらいます〉



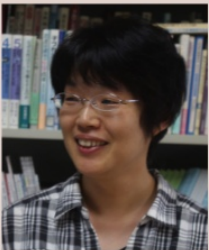
わたなべひろゆき
(松山市議会議員)

京都府出身。四国で初のトランスジェンダー（MTF）であることをカミングアウトする議員。「LGBTQの人達も皆様と同じように笑顔で幸せに生活がしていける街づくり」や児童相談所設立、社会からマイノリティを取りこぼさない市政を目指している。



石川良子
(松山大学教授)

松山大学人文学部教授。専攻は社会学・ライフストーリー研究。2000年から「ひきこもり」の調査研究を継続しており、ほかにも様々な現場でフィールドワークを行なっている。



鈴木静
(愛媛大学教授)

福島県出身。愛媛大学法文学部教授、2021年より女性未来育成センター長。専門は社会保障法、主に人権保障の観点から、高齢者、障害のある人やハンセン病回復者らを取り巻く諸課題に取り組む。



渡邊元貴
(愛媛大学3回生、
愛媛大学人文学会学生委員)

愛媛県出身。愛媛大学法文学部人文社会学科芸術学専攻3回生。愛媛大学人文学会学生委員。映像メディアにおけるジェンダーやセクシュアルマイノリティ表象について日々活動・研究している。